

平成29年度 (2017)

前期

土曜健康科学 セミナー

講義時間
13:30~15:00

受付

13:00から行います
定員120名

☆事前予約は必要ありません

会場

健康ライフプラザ 5Fホール

受講料

1回ごとの受講料 500円

セミナー通し料金 5,000円

4
月

第2週

8日

(526回)

高齢者に多い神経内科の疾患

ーパーキンソン病などー

神戸大学大学院医学研究科
神経内科学分野 教授

戸田 達史 先生

パーキンソン病は、ドパミンと言う伝達物質が不足し運動障害を主症状とするアルツハイマー病とともに多い神経変性疾患ですが、人口の高齢化に伴い患者数は増加しており、認知症との関連も言われています。ここでは高齢者に多い神経内科の病気についてお話しします。

第4週

22日

(527回)

脳卒中の予防と最新の治療

社会医療法人榮昌会
吉田病院 附属脳血管研究所 院長

吉田 泰久 先生

脳卒中は日本人の国民病といわれるほど多い病気で、今後ますます増加すると予想されます。また、介護が必要となる人の1/4は脳卒中が原因となっています。脳卒中にならないようにするためにどうすればよいか、また、なってしまったらどんな治療があるのかについてお話しします。

5
月

第2週

13日

(528回)

あなたの肝臓は大丈夫ですか？

近畿大学医学部
消化器内科 講師

矢田 典久 先生

近年、脂質異常症・高血圧・肥満といったメタボリックシンドロームによって、肝硬変や肝がんのリスクの高い脂肪性肝炎を起こすことがわかってきました。このメタボリックシンドロームなどを原因とする非アルコール性脂肪性肝炎という病気について、わかりやすくお話しします。

第4週

27日

(529回)

腸内細菌と生活習慣病

神戸大学医学部附属病院
循環器内科 准教授

山下 智也 先生

腸内細菌が生活習慣病などの疾患発症に関連するという報告がなされ、疾患の発症予測法や治療標的としての利用が想定されます。世界で行われている腸内細菌に関する医学研究の成果を紹介し、今後の医療分野への利用についての展望をお話しします。

6
月

第2週

10日

(530回)

子宮がんについて

西神戸医療センター
産婦人科 医長

佐原 裕美子 先生

検診が重要とされる「子宮頸がん」は若い女性に増加しており、近年ウイルスの持続感染で起こることがわかってきました。また、生活スタイルの変化により「子宮体がん」も増加しています。子宮がんの概説に加えて、どんな不正出血は受診が必要か、なぜ検診が大切なのかもお話しします。

第4週

24日

(531回)

あなたの腰痛は大丈夫？

神戸大学大学院医学研究科
整形外科学分野 准教授

西田 康太郎 先生

人生において8割の方が腰痛を経験するそうです。一言で「腰痛」といっても様々な疾患があり、中には注意が必要なものもあります。専門医に相談すべき症状や、どのような診断・治療方法があるのか最新の知見を含めてお話しします。

お問い合わせ

神戸市健康づくりセンター 健康ライフプラザ

TEL 078-652-5202

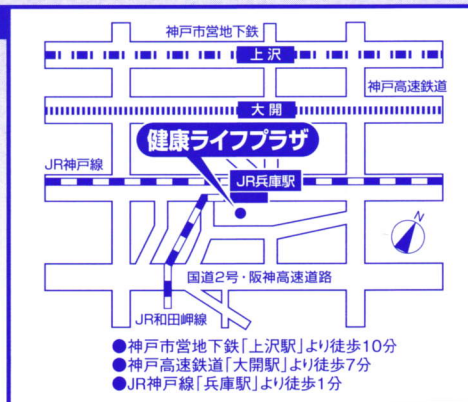
受付時間 9:00~17:00 休館日 月曜日・祝日



お気軽に
ご参加
ください

指定管理者 / 公益財団法人兵庫県予防医学協会
〒652-0897 神戸市兵庫区駅南通5丁目1-2-300
(JR兵庫駅南すぐ)

<http://www.hyogo-yobouigaku.or.jp/lifeplaza/kenkogakushu.html>



7月

第2週

8日

(532回)

貧血のあれこれ

— 血が薄くなったときのために —

神戸市立医療センター中央市民病院
血液内科 部長
石川 隆之 先生

立ちくらみやめまいを「貧血」と表現されることが多いのですが、実は原因の多くは貧血(赤血球が足りなくなり血液の赤みが薄くなること)ではなく、その症状の背景には、胃や腸の病気、ビタミン不足、肝臓・腎臓の病気、さらには血液がんなどの重大な病気が潜んでいることが少なくありません。貧血の症状を正しく知り、貧血のもととなる病気を早期に発見できればと思います。

第4週

22日

(533回)

21世紀の保健課題

— グローバル化する感染症に対する
保健システムの構築に向けて —

WHO健康開発総合研究センター
テクニカルオフィサー
茅野 龍馬 先生

21世紀、世界はエボラ出血熱やMERS、ジカ熱など、治療法のない感染症が、急速かつグローバルに広がる、という脅威に直面しています。本セミナーでは、WHOが各国政府と協力し、この問題に対してどのような対策を講じているのかを、国際保健の歴史と共に概説します。

8月

第1週

5日

(534回)

ロコモと闘うための 赤筋と生活スタイル

神戸大学大学院保健学研究科
運動機能障害学分野 教授
藤野 英己 先生

ロコモは加齢による筋肉の弱体化で、30歳代から始まり、60歳を超えると著明になってきます。私たちの筋肉には魚のように赤身と白身があり、ロコモ予防・改善には赤身の運動、生活スタイルや食事が重要です。本セミナーでは赤身の運動や食生活についてお話しします。

第4週

26日

(535回)

気になるもの忘れ

— 認知症と認知症対策について —

六甲アイランド甲南病院
認知症疾患医療センター センター長
小倉 純 先生

わが国を含む全世界で認知症人口は急速に増加し続けており、認知症対策は保健医療上の喫緊の課題となっています。認知症への理解を深めるために、認知症の症状、認知症をきたす主要な疾患、認知症対策の現況と認知症予防の可能性などについてお話しします。

9月

第1週

2日

(536回)

下肢の血管病変を知る

— 閉塞性動脈硬化症、下肢静脈瘤 —

神戸労災病院
副院長・心臓血管外科 部長
脇田 昇 先生

「血管は人と共に老いる」高名なウィリアム・オスラー博士の言葉ですが、高齢化社会を迎え、血管の病変を知ることでも大切です。今回は、動脈硬化によって引き起こされる「閉塞性動脈硬化症」と、静脈疾患の「静脈瘤」、「深部静脈血栓症」について、わかりやすくお話しします。

第3週

16日

(537回)

知っておかないと怖い サイレントキラー、 大動脈瘤の診断と治療

神戸市立医療センター中央市民病院
心臓血管外科 部長
小山 忠明 先生

血管はその人の人生と共に老いて痛んでいきます。現代の高齢化社会では血管の老い、動脈硬化は自然現象と言えます。その結果として、大動脈のある部位が拡張し瘤のように腫れあがるのが大動脈瘤です。大動脈瘤は大きくなって多く場合は体に変調を引き起こしません。ある日突然破裂して死に至る危険な病気です。そうならないための診断と治療の基本についてお話しします。